

博士論文審査結果報告書

2020 年 2 月 17 日

論文提出者	論文審査担当者
専攻領域 リハビリテーション科学	審査委員（主査） 古田恒輔
専攻分野 生活支援補完学	審査委員（副査） 中川昭夫
氏名 KHAN MD MEHEDI HASAN	審査委員（副査） 西尾久英
(カーン ムハマド メヘディ ハッサン)	
<p>論文題目</p> <p>Consideration on the Improvement of Assistive Products' Availability and the Awareness of Rehabilitation Professionals in Bangladesh</p> <p>(バングラデシュにおける福祉用具の入手可能性とリハビリテーション専門家の福祉用具に対する認識の改善に関する考察)</p>	
<p>審査結果</p> <p>2020 年 2 月 17 日に博士論文に関する面接及び質問による審査を実施した。</p> <p>審査では、発表会以降の修正箇所の有無の確認を行ったのち、論文やその背景因子に関する質問を行った。発表会以降での本論文に関する変更や修正はなかった。</p> <p>バングラデシュの福祉用具における意識調査の背景について質問した。障がい者を有する人は、総人口の 9.1%であり、そのうちの 80%は貧困層である。障がい者の国による登録が近年に始まったばかりで、それまでは実体すら掴めない状況にあった。特に国の要職の子息が障がい者を有するにあたって政策が急激に変化したようである。次に論文では、理学療法士、作業療法士などの福祉用具に関する記述から、これら専門家の養成状況について質問した。近年になって 3 つの養成機関が設立された。また、全国各地に保健・障害者支援センターが設置され、理学療法士が配置されたことから、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など専門職に対する国民の認知度も高まっており、期待も大きくなっている。本論文の調査においてアンケート回収率が非常に高い点に関しては、これら機関の上級職者による協力要請があったことがあげられた。また、今回の調査によるこれらの機関の専門家に及ぼす影響については、いままでもリハビリテーションの専門家に認識はあったが、車椅子や杖といった移動関連用具がほとんどで、今回 WHO の「Priority Assistive Product's List (APL)」を用いたことで、発展途上国であってもさらに多くの種類の福祉用具が必要になるとい</p>	

た認識がなされたとした。さらに、この研究のバングラデシュへの効果では、①まずこのような調査そのものがなかったこと、②リハビリテーションの専門家に対して APL の存在と利用価値を示すことができたこと、③福祉用具利用促進につながる情報提供の指針を与えることができたこと、④近隣諸外国へ知識を求めて情報収集を希望する人材が増えたことの 4 点があげられた。このように本論文は、バングラデシュにおける福祉用具利用価値の認知、情報収集ルートの認識、流通に関する今後の課題を明らかにし、今後の暮らしの質改善の基礎となる研究であると考えられた。

これらのことから、論文提出者は、博士の学位を得る資格があると認める。

審査委員（主査）

古田 恒輔

